

 公益財団法人 Altum 協会

# 2023 年度報告

**【ご注意】** この文書の用途は、主として理事会、評議員会等での内部検討用であり、体外的に公開を目的としておりません。一部、個人情報が含まれており、取り扱いには、ご注意ください。



2024.5.15

# 目次

## 事業の実施状況

---

1 事業の要約	3 ページ
2 事業 A 学び・交流の場の整備と提供	4 ページ
3 事業 B 学び・交流のための活動プログラムの開発と提供	
活動プログラム留意事項	6 ページ
オリエンテーション	7 ページ
サークル	9 ページ
リトリート	11 ページ
オープン対話会	13 ページ
パーソナル面談	14 ページ
フォーラム	15 ページ
体験会・探求ツアー	16 ページ
ボランティア	17 ページ
連携・助成	18 ページ
複合活動	19 ページ

## 運営管理

---

1 ガバナンス体制	20 ページ
2 事務局の体制	21 ページ
3 課題への取組	22 ページ

## 事業の実施状況

### 1. 事業の要約

公益財団法人 Altum 協会の事業は、大きく2つの事業から構成され、事業 A と事業 B と区分する。事業 A と事業 B は、おおよそ、ハードとソフト或いは器と中身という関係にある。

#### 事業 A 学び・交流の場の整備と提供

ここでいう場とは、レジデンス、ライブラリ、育成センター等の自己施設及びデジタル空間であり、この場を、効果的な学びと交流を実現するために整備し提供した。

2023 年度の参加者数

1 レジデンス、ライブラリ、育成センター等施設の整備と提供	総利用者延約 25,000 人
2 デジタル空間の整備と提供	総利用者延約 6,000 人
事業 A 参加者総数	約 31,000 人

#### 事業 B 学び・交流のための活動プログラムの開発と提供

オリエンテーションと9つの活動プログラムを実施した。

2023 年度の参加者数

オリエンテーション 初めての参加者への説明、意向確認等	48 人
1 サークル	1,303 人
2 リトリート	356 人
3 オープン対話会	6,233 人
4 パーソナル面談	3,521 人
5 フォーラム	68 人
6 体験会・探求ツアー	47 人
7 ボランティア	190 人
8 連携・助成	190 人
9 複合活動	534 人
事業 B 参加者総数	12,406 人
事業総参加者数 (A+B、延人数)	約 43,000 人

## 2. 事業 A 学び・交流の場の整備と提供

整備と提供を行なう「学びと交流の場」は、自己施設とデジタル空間の大きく2つ。

### ライブラリー、レジデンス、育成センター等の自己施設の整備と提供

施設等の名称	概要
セイドー文化センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>■所在 兵庫県芦屋市大榎町1-11</li> <li>■定員 研究個室/寮個室 定員15名 活動定員200名</li> <li>■設備 会議室、研修室、面談個室、食堂、居間、勉強室、図書室等</li> <li>■機能 レジデンス、ライブラリ、育成センター、本部</li> <li>■その他 入居学生数：7人（日本3、フィリピン1、中国1、スペイン1、ブラジル1）</li> </ul>
ハウス104	<ul style="list-style-type: none"> <li>■所在 兵庫県芦屋市東芦屋町12-12</li> <li>■定員 研究個室（研究宿泊施設）定員12名 活動定員80名</li> <li>■設備 会議室、研修室、面談個室、食堂、居間、図書室等</li> <li>■機能 レジデンス、ライブラリ、育成センター</li> </ul>

- 学生は月額 11 万円（食事・洗濯・掃除込）、研究宿泊室利用は実費 4000 円/日、他は無料
- 対象者： 全ての活動は、兵庫県在住、在勤、在学又は出身等県につながりのある者を対象
- 2023 年度 延利用者数約 25,000 人
- 施設運営の留意点
  - ◇ 無駄なく行き届いた設備、清楚で家庭的な家具と調度品・「今」に集中できる空間を提供
  - ◇ 本協会の定款 3 条の法人の目的である「ゆるぎない軸と豊かな絆を持ち、他者を尊重し他者によりそい、世界と日本の真の発展・繁栄に貢献できる人材の育成」照準。
  - ◇ 「参加者が一定の習慣を身につける」という成果を得るため、①よりそい・対話する実施者、②参加者にフィットした活動、③好ましい環境という 3 点が必要条件を満たす上で、三点目の好ましい環境の柱にあたるのがレジデンスやライブラリーを設置し提供する。
  - ◇ ライブラリーは単に蔵書・アーカイブ（図書約 3000 冊、デジタル図書約 500 冊、ナレッジアーカイブ約 1000 点）を提供するだけでなく、利用者各自の問いやニーズにヒントを与える。
  - ◇ レジデンスは、そこに住む参加者のみならず、外部からの参加者が日常的に出入りする場として使用。



デジタル空間の整備と提供

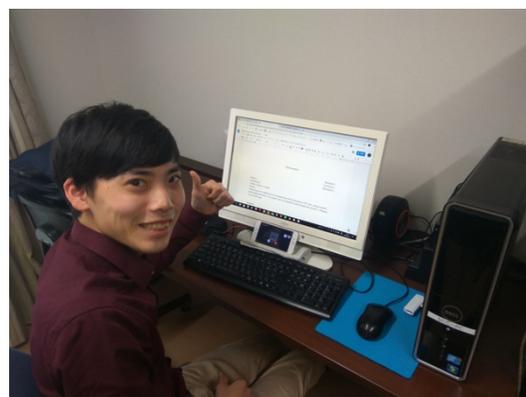
デジタル・アーカイブ利用者	<p>利用者は、上記①の施設内のイントラネットで利用。外部リンクサイトや一部の内容は Web アクセス可能。利用にあたり、利用登録（無料）を行い、プログラムディレクター又はコーディネーターによるガイダンスを受けるものとする。コンテンツは随時利用可能。</p>
<p>コンテンツ</p> <p>（すべてのファイル形式は、テキスト 動画 音声等のデジタルファイル）</p>	<p>コンテンツの分野とタイトル例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 軸と絆、他者尊重、寄り添い等の全般に関するもの： 「あなたがたを友と呼ぶ」、「友情を深める 36 の質問」、「対話の実践」等</li> <li>■ 自己認識に関するもの： 「自己認識とは」、「もうひとりの私」、「リトリートが意味する“向き合う時間”」等</li> <li>■ 心理的柔軟性に関するもの： 「心理的柔軟性の尺度」、「ストレスを感じたらやるべきこと」、「疲れと休息」、「心理的柔軟性スキルとは?」、「心理的柔軟性を高める6つのアプローチ」等</li> <li>■ 受容と対話に関するもの： 「困難を受容」、「ネガティブケイパビリティとは」</li> <li>■ 価値コミットに関するもの： 「価値を明らかにする」</li> <li>■ ユーモアに関するもの： 「対話におけるユーモアのちから」</li> <li>■ 自己超越に関するもの： 「自己超越とは何か」、「自己実現の呪縛」、「マズローの欲求五段階説と自己超越」</li> <li>■ 外部リンク先を含め現在コンテンツ 1000 程度</li> </ul>
利用者へのサポート	<p>プログラムディレクター及びコーディネーターは、使い方、技術的な問題等に関する利用者の質問に応えるとともに、利用者が今抱えている、求めている「問い」に見当をつけ可視化する手伝いをする事で、ふさわしいコンテンツを見出すサポートをする。</p>

■ デジタル・アーカイブは、ゆるぎない軸と豊かな絆、他者を尊重し、寄り添うヒントとなるコンテンツを整備し、今の状況に適切にフィットした形で利用できるサポートとともに提供

■ オンラインでの活動プログラム参加者には、安定性とセキュリティを確保し、ストレスのない配信を行えるように機材やコミュニケーションチャンネルを整備し提供

■ 2023 年度延利用者数約 6,000 人

■ 利用は無料



### 3 事業 B 学び・交流のための活動プログラムの開発と提供

#### 活動プログラムの留意事項

##### ■ 用語の定義

**参加者**とは、活動プログラムに参加する人を指し、オリエンテーションを受ける参加希望者も含まれます。**実施者**とは、活動プログラムのプログラムディレクター、プログラムコーディネーター、講師等を始め、活動プログラムの準備、手配、実施に何らかの形で携わる人々を含みます。原則として、個々の活動プログラムは、プログラムディレクター又はプログラムコーディネーターが主導します。プログラムディレクター及びコーディネーターの該当条件と職務は次の通りです。

職務名	該当条件と職務内容
プログラムディレクター	プログラムコーディネーターとして3年以上の経験を持ち、他のプログラムディレクター2人以上の推薦が得られる人を、本人がこの役割を引き受ける意向があれば、協会が指名する。担当するプログラムを他のディレクターやコーディネーターと連携し主導する。
プログラムコーディネーター	2年以上のプログラム参加経験を持ち、本協会の趣旨、事業目標等に賛同し、活動内容を広く理解しているとともに、6つの習慣に親和性を持ち、自らが習得するように生きている人の中から、本人がこの役割を引き受ける意向があれば、協会が指名する。担当するプログラムをディレクターの指導のもとに主導する。

##### ■ 活動プログラムは成果に焦点をあてる

活動プログラムの成果は、「参加者が単に知識や技術を身につけるだけでなく、価値を明確にし、その価値にそって生きる上で、種々の思考や感情によって囚われとなることから自由となり、大切にしたい価値にそって生きていくことを容易にする習慣を身につけること」です。実施者は、成果に焦点をあてて、取り組んでいます。

##### ■ 原則と適応

それぞれの活動には、一定のプログラムデザイン(シラバス、日時、実施者等)が存在します。しかしこのプログラムデザインは、参加者の状態やその時々ニーズ等によって柔軟に適応可能なものです。無論、思いつきやその時の気分で安易に変えてしまうものではなく、流れに逆らっても、忍耐と強さを発揮して取り組む必要があることも事実です。随時適応することと、原則に忠実であることは、多くの場合、見返り、トレードオフに見える関係であるものの、成果に焦点をあててじっくりと眺めれば、多くの場合、両立する道を見出します。要は、参加者にとって一つの機会が、より効果的なものとなるよう、惰性或固定化されたやり方に陥ることなく、日々新たな気持ちをもって、実施者と参加者が共に挑戦を続けることとなります。

##### ■ 立ち位置

実施者が、参加者に対して、心をひらき、参加者を心にとめ、思い巡らしつづける姿勢、つまり共感と尊重という姿勢に欠けていれば、活動プログラムはうまくいきません。特に参加者より「一歩先を行く」とか「優位にいる」「教える立場にいる」という考えを抱いていないか、常に実施者は心がけることが求められます。参加者と実施者は、同じ立ち位置にいることが重要なのです。

ひんぱんに、参加者には、実施者と変わらない立場、同じ立ち位置にいることを伝えます。私たちは、生きていく上で、成功と失敗、順風と逆風、光と闇、称賛と非難、感謝と忘恩等に出くわします。とりわけ、実施者も参加者同様、簡単に思考や感情に囚われ、「今、この瞬間」とのつながりを失い、しばしば行き詰まり、思考や感情との無益な闘いを繰り返します。何度も、落胆、拒否、失敗、裏切り、喪失感、孤独、病気、吐き気、ケガ、悲嘆、不安、恐怖等の苦しみを味わいます。参加者と実施者は、旅路を歩む仲間同士として、共に学び合い、助け合うことという立場にあるよう努めます。

## オリエンテーション

オリエンテーションでは、参加者（参加希望者を含む）と実施者（通常プログラムディレクターかコーディネーター）との双方向のやり取りを通して大体以下の流れで内容の確認や伝達した。

- 参加者 48人。
- 参加者の理解と承諾を得たい5つのポイント（詳細は、下記オリエンテーションガイド参照）
  - ◇ ラポール（信頼関係）を得る
  - ◇ ヒストリー、背景を聞く、意向確認をする
  - ◇ インフォームドコンセントを得る
  - ◇ 最初の目標を大雑把に決める
  - ◇ 活動の方向性の確認



### プログラムディレクターかコーディネーターのための オリエンテーションガイド

オリエンテーションは、参加者（参加希望者を含む）と実施者（通常プログラムディレクターかコーディネーター）との双方向のやり取りを通して進めます。オリエンテーションを通して、参加者の理解と承諾を得たいポイントは以下の5つがあります。

#### ■ ラポール（信頼関係）を得る

最初のオリエンテーションで参加希望者は、不安と期待の両方を抱いているのが常です。まず、参加者には、実施者と変わらない立場にいることを伝えます。私たちは、生きていく上で、成功と失敗、順風と逆風、光と闇、称賛と非難、感謝と忘恩等に出くわします。とりわけ、実施者も参加者同様、簡単に思考や感情に囚われ、「今、この瞬間」とのつながりを失い、しばしば行き詰まり、思考や感情との無益な闘いを繰り返します。何度も、落胆、拒否、失敗、喪失感、孤独、病気、吐き気、ケガ、悲嘆、不安、恐怖等の苦しみを味わいます。参加者と実施者は、旅路を歩む仲間同士なのです。だから共に学び合い、助け合うことができるのです。

実施者が、参加者に対して、心をひらき、参加者を心にとめ、思い巡らしつづける姿勢、つまり共感と尊重するという姿勢に欠けていれば、プログラムはうまくいきません。特に参加者より「一歩先を行く」とか「優位にいる」「教える立場になる」という考えを抱いていないか注意をしてください。参加者と実施者は、同じ立ち位置にいることが重要なのです。

#### ■ ヒストリー、背景を聞く、意向確認をする

参加者のことを理解するプロセスは、オリエンテーションから始まります。その後の活動、とりわけパーソナル面談でより深く参加者を知ることになるので、この段階では、次の質問に関してある程度答えてもらうこととします。参加者によっては、明確に答えられないかもしれません。その場合には、活動に参加するうちにより明確に認識できるようになるので心配しないように伝えてください。4番目の質問では、参加者が是非話したておきたいことがあれば、時間の許す限り限り耳を傾けてください。また、実施者が必要と感じた場合には、これ以外の質問を加えてもかまいません。

- ◆ 活動を参加するにあたり、特に、何を期待していますか。
- ◆ 生きていく上で、大切にしたいこと（価値）にはどんなことがありますか。
- ◆ 大切にしたいこと（価値）に沿って生きる上で、何が邪魔になりますか。
- ◆ 他に、聞いておくべきことがありますか。

#### ■ インフォームドコンセントを得る

このステップは主として三つあります。（直前のステップが一定以上の時間が経過するようなら、参加者には、次のように言って、このステップに移ります。「お聞きしたいことはまだまだあるのですが、オリエンテーションとして、この程度で一旦区切り、参加する活動とはどんなものか、何を狙いとしているのか等について、少し話をさせてください。」）

① どんなことをするのか、何を狙いとしているのかを伝えます。この中でお伝えすることの一つは、本協会のルーツや人間観には、カトリックが背景にあること、宗教活動や宣教を行うわけではないものの、出入りをすれば、カトリックの文化的・社会的な面にも間接的に触れることになることをお伝えし、この点ご承諾をいただけるのかを確認します。

② 日々の生活での実践の重要性を伝えます。参加者は、活動プログラムに参加して、理解が深まった、今までの整理ができたといった一定の満足を得るかもしれません。それは良い経験であることには違いないものの、本当に大事なパートは、各自の日常で学んだことやろうと決めたことを、どこまで実践し、生活に落とし込むことができるのが最も重要なのです。この点をしっかりと伝えてください。

③ 考えられる副反応を伝えます。目標や価値を明確にしていくにつれ、如何に自分がそこから離れた生活を送っているのが次第に明らかになり、自分に失望を感じたり、熱意を感じなくなったりということが一時的にでもあり得ます。気持ちの良い経験ではないものの、この時こそセルフコンパッションや自己認識を深める大きなチャンスであると捉えることが重要です。

#### ■ 最初の目標を大雑把に決める

参加者が、活動を通して何を学び、どんなことを身につけたいのか明確にします。最初から、詳細な目標を立てる必要はありません。細かすぎる目標を立てると、その時は、何か成し遂げたと良い気持ちになりがちですが、時間の経過とともに、形骸化や硬直化を招きがちです。むしろ、大雑把な狙いでもいう目標を仮置きする程度で良いでしょう。通常、参加者は、時とともに、様々な気づき得て、より有効な目標を発見していくものです。

#### ■ 活動の方向性の確認

以上のステップから、参加者がまずどんな活動を何回程度、経験してもらうのか一定の方向性を決めていきます。

そこで作成する典型的な活動パッケージの例を2つ掲げます。

- ◆ 参加意欲が高くコミットが明確な方なら、パーソナル面談（週1）4～6回程度、リトリート（月1）を3回程度、サークル（週1）を4～6回程度参加
- ◆ まだ本格的に参加するかどうか決めていない方なら、パーソナル面談（週1）3回程度、リトリート（月1）を1～2回程度、オープン対話会を2、3回、その他の体験会・ツアー・スポーツ等の活動に興味があるものに参加

オリエンテーションの最後で参加者をお願いするのは、出発点の状態（ベースライン）を測定するための Web アンケートへの回答です。それ以外に、チェックシートや説明書の提出を求めることはしておりません。



#### ■ 他の団体や機関をお勧めしたほうが良いケースについて

基本的に、「来るものは拒まず」というスタンスで、人々を迎えます。参加者と実施者は、最初の半年程度の間、細やかに参加の状況や進捗度合い、フィット感といったことについて、パーソナル面談等で振り返り、この方向で続けるのか否かを見極めるようにしていきます。

一定期間の後に、ごく稀に、フィット感を感じない人、自分のいる場所と違うのではないかと感じた違和感を感じる人もいます。できる限りそういう人にも寄り添うようしつつ、少し冷却期間を設けたり、本人の意向により合った他の組織のプログラム等を見つける手伝い等をします。

例外的には、活動プログラムに参加するよりも、まず専門の医療機関等において治療に専念すべきことが明らかな場合は、実施者から、現時点での参加は、見合わせるべきことをお伝えする場合があります。

例

- ◆ 精神科の治療が必要と考えられる重度の疾病をお持ちの方
- ◆ 医療的治療を必要とする重い依存症に苦しむ方

## サークル

社会の課題に正解が見あたらない状況に対処するため、問題の本質を捉え、解くべき課題を発見し、問いを投げかけ創造的対話を促進する基幹となる習慣を学ぶ勉強会を 45 分～1 時間/回、原則毎週 1 回実施

### ■ 実施プログラム名、開催日、場所、参加人数

プログラム名	開催日	場所	参加人数
お試し	随時	オンライン	28
社会人	毎週 月 1930	ハウス 104	462
社会人	毎週 火 1900	セイドー文化センター	389
社会人	毎週 木 0915	セイドー文化センター	292
学生	毎週 日 1130	セイドー文化センター	187
合 計			1,358 人

■ 対 象 者 年齢・経験・意向等により 10 人までのグループに編成。英、西、仏語対応

■ 開催日数 約一時間/回を、週一回程度で実施

■ 場 所 自己施設又は外部施設。全てオンライン参加対応

■ 費 用 無料

### ■ 実施者が留意したポイント

- ◇ 理論的な説明に始終するのではなく、実施者が自らの実践で気づいたことを、自らの言葉と適切なメタファーを使って説明をするように心がける。
- ◇ 各クラス内容は、参加者の状況やニーズ等に適合させ、必要なら説明する内容や順番を変更するなど、柔軟に運用にする。
- ◇ 要は、内容を正確に伝えることより、目指す習慣を習得するために、参加者が日々の生活で心がけ、練習を積んでいくための刺激、ヒント、サポートを効果的に行うことに軸足を置いた。



■ テーマ各クラス内容

基本となるテーマは、六つの習慣を身につけること

- ◇ 自己認識
- ◇ 心理的柔軟性
- ◇ 受容と対話
- ◇ 価値コミット
- ◇ ユーモア
- ◇ 自己超越

■ テーマ毎の各クラス内容

番号	テーマと概要	月	週	
1	習慣：身につけたい6つの習慣に共通するポイントの解説と実践	4	1	習慣の力と形成
2		4	2	知識、技術等：習慣 = PCのアプリ：OS
3		4	3	秩序 時間の活用 英雄的瞬間
4		4	4	自分と他者に対する共感
5		5	1	振り返り点と転換点 マイルストーンとターニングポイント
6		5	2	対話的に習得する習慣
7	復習、補足等	5	3	予備
8	自己認識：自己認識とはなにであり、自己認識を深めるためにどうするのか、自己認識が増せば他者認識も増すことの意味を深め、普段から意識し、取り組む方法を習う。	5	4	自己認識とその前提である心構え 謙虚、誠実、感謝、挑戦等
9		6	1	フィードバックを求める
10		6	2	振り返る
11		6	3	リトリートを利用する
12		6	4	個人面談を利用する
13		7	1	問いかける： できることとできないこと
14	復習、補足等	7	2	予備
15	心理的柔軟性：たとえ不快な感情や考えがあったとしても、大切にしたいと思うことに向かつて行動できるようになる習慣である心理的柔軟性の諸側面、構成要素、コツを見る。	7	3	心理的柔軟性とは
16		7	4	iモードとWeモード
17		8	1	転換点
18		8	2	内的落ち着きと喜び
19		8	4	3つのポジション： 受容、コミット、Weモード
20		9	1	よりそう仲間
21	受容と対話：あるがままを受け取る習慣とともに、安らぎと創造性に開かれた対話を心がける習慣を生活で意識し練習することを習う。	9	2	受け取る、 囚われ、 雲のメタファー
22		9	3	闘争逃走反応 VS 受容、 創造的あきらめ
23		9	4	心に風を入れ心が広がる。心に浮かべておく
24		10	1	よりそう： ともにいる 受け止める 共感する
25		10	2	多様な声： 対話の場 全員の声 リフレクティングトーク
26		10	3	新たな理解： 安心と信頼、創造的な不確定性、未来につながる
27	価値コミット：自らが大切にしたい価値を発見し、それに効果的にコミットする習慣を理解し、取り組むヒントを習う。	10	4	価値： 自らが大切にしたこと、目的との違い等
28		11	1	価値コミット： 価値に沿って生きること
29		11	2	心にとめて、思い巡らす： 計画、段取、人等
30		11	3	スポーツマン精神
31		11	4	希望
32		12	1	小さいこと
33	復習、補足等	12	2	予備
34	ユーモア： 困難な状況においても、楽観性、笑い、ユーモアを持って生きることが可能であること、その取り組み方を習う。	12	3	現実を見るフィルター、先入観等
35		12	4	楽観と悲観
36		1	1	喜びと悲しみ
37		1	2	希望と失望、絶望
38		1	3	柔軟性と硬直性
39		1	4	内的平和と喜び
40	復習、補足等	2	1	予備
41	自己超越：自分の殻や境界線を超えて、冒険・探求に出かけ、他者に深く関わっていくのを生活で実践する方法を習う。	2	2	身近な自己超越
42		2	3	アスリート等のフローやゾーン体験
43		2	4	自己呪縛 VS 自己超越
44		3	1	自己の殻や境界線を越えるとは
45		3	2	あえて明後日の方向を向く冒険・探求行動
46		3	3	他者に関わる 無償性の論理
47	復習、補足等	3	4	予備

同一月内に第5曜日があるときは休みか参加者と相談の上で、補講日とする

## リトリート

日常生活から離れて、沈黙の中で、自分を見つめ直し、心身をリラックス・リフレッシュするとともに、注意力、集中力、ストレス管理等のスキルを向上させるエクササイズ。

■ 月例プログラムは毎月実施。2泊～5泊のコースプログラムは年5回実施

プログラム名	開催日	場所	参加人数
社会人月例	第3土曜日	セイドー文化センター	126
若手社会人月例	第4木曜日	セイドー文化センター	49
社会人月例	第4日曜日	ハウス 104	102
社会人月例(英語)	第4日曜日	セイドー文化センター	58
学生月例	第3日曜日	セイドー文化センター	43
社会人4日	5月2日～5日	奥芦屋スタディセンター	21
社会人4日	10月7日～10日	奥芦屋スタディセンター	17
社会人4日(英語)	12月1日～4日	奥芦屋スタディセンター	13
学生4日	12月1日～4日	奥芦屋スタディセンター	14
社会人5日	12月26日～31日	奥芦屋スタディセンター	16
合計			459人

■ スケジュール（月例プログラム）講話による話題提供と、自由時間を各自が好みの形で過ごす

時刻	活動・テーマ
0930-1000	講話1 ※
1000-1030	自由時間
1030-1045	考察ポイントによる振り返り
1045-1130	自由時間
1030-1200	講話2 ※
1200-	ランチ 希望者のみ

※ 講話は、一定の知識、経験、評判をもとに本協会が認定したカトリック神父・司教が担当  
 ※ 上記は、午前のスケジュール例。午後に実施する場合もある。時間配分はほぼ同じ。

■ 講話トピックスの例

- ◇ 今を生きる マインドフルネス
- ◇ あるがまま受け取り、価値にそって進む
- ◇ 自己認識を深めるための自分を振り返る習慣
- ◇ 光と風、外からのシグナルと時の印に気づく
- ◇ 無償で受け、無償で与える



■ 月毎の共通テーマ

月	内容
4	出発と再出発、再び立ち上がる
5	目標と価値：ゴールと大切にしたいこと、日々の継続
6	リーダーシップ、奉仕の精神、強さ
7	希望と喜び
8	笑顔、共感、優しさと逞しさ、細部への気配り
9	秩序、優先順位、仕事と家庭のバランス
10	受け取る と 与える
11	休息する
12	絆を深める、ツールとしてのソーシャルメディア
1	健康と病、古い
2	生きがい
3	家族・高齢者のケア、世代間の共存。

■ 担当者

プログラム名	開催日	場所	担当者
社会人月例	第3土曜日	セイドー文化センター	笹野克志、篠崎迪明
若手社会人月例	第4木曜日	セイドー文化センター	篠崎迪明、ヘスス・ラモス
社会人月例	第4日曜日	ハウス 104	ラモン・ロベス、中島貴幸
社会人月例(英語)	第4日曜日	セイドー文化センター	ラモン・ロベス、ヘスス・ラモス
学生月例	第3日曜日	セイドー文化センター	篠崎迪明、中島貴幸
社会人4日	5月2日～5日	奥芦屋スタディセンター	新田壮一郎
社会人4日	10月7日～10日	奥芦屋スタディセンター	新田壮一郎
社会人4日(英語)	12月1日～4日	奥芦屋スタディセンター	ラモン・ロベス
学生4日	12月1日～4日	奥芦屋スタディセンター	篠崎迪明
社会人5日	12月26日～31日	奥芦屋スタディセンター	篠崎迪明

■ 参加費用 月例は無料 宿泊を伴うものは実費一泊あたり約 9000 円 (個室 3 食込)



## オープン対話会

3人以上のくつろいだ雰囲気のもとで、参加者各自が立場にこだわらない対等性、ポリフォニック（多声的）な対話になるよう配慮することで、今の立ち位置や状況を異なった視点で眺め、新たな理解や創造的なひらめきを得るために対話する「だんらん」の機会を提供した。

### ■ 実施プログラム名、開催日、場所、参加人数

プログラム名	開催日	場所	参加人数
対話会 昼	毎日 1300-1330	ハウス 104	1,549 人
対話会 夜	毎日 1830-1700	ハウス 104	2,051 人
対話会 夜	毎日 2045-2115	セイドー文化センター	2,393 人
合 計			4,993 人

- 開催日数            1 回 30 分 ほぼ毎日 年間約 1000 回 開催
- 場所                    自己施設
- 内容                    話題は、事前に参加者の希望によるか、その場で自然に出てきた内容
- 参加費用              無料
- その他                 英語、西語にも対応



パーソナル面談

利用者ごとにプログラムディレクター・コーディネーターの中から特定の担当者を決め、コーチング、メンタリング、よりそい等の要素を持つ対話を通じて、自らが大切にしたいと思っている価値を確認し、価値に沿って取り組む習慣を作るため、一対一で定期的に行う対話の活動を行った。

■ 実施プログラム名、開催日、場所、参加人数

プログラム名	開催日	場所	参加人数
パーソナル面談	随時	ハウス 104・/ オンライン	1,070 人
パーソナル面談	随時	セイドー文化センター / オンライン	2,451 人
合 計			3,521 人

- 開催日数            参加者ごとにほぼ毎週 1 回から 2 週間に 1 回実施
  
- 場所                    自己施設又は外部施設。オンライン対応
  
- 内容                    今やっけていきていることを眺め、変えられないことを受け入れ、変えられることを自らの価値にそって取り組む、以上に関する限りどんな話題でもとりあげた
  
- 参加費用              無料
  
- その他                 英語、西語にも対応



## フォーラム

社会起業家、演劇・映画監督、俳優、学者、芸術家、建築家、彫刻家、音楽家、コンサルタント、アスリート、セラピスト、外交官等の専門家を招き、困難な状況においても、楽観性、笑い、ユーモアを持ち、あきらめず挑戦をつづける励ましを受け、自らが大切にしたい価値に気づく等を目的とする話題提供と対話を行った

### ■ 実施プログラム名、開催日、場所、参加人数

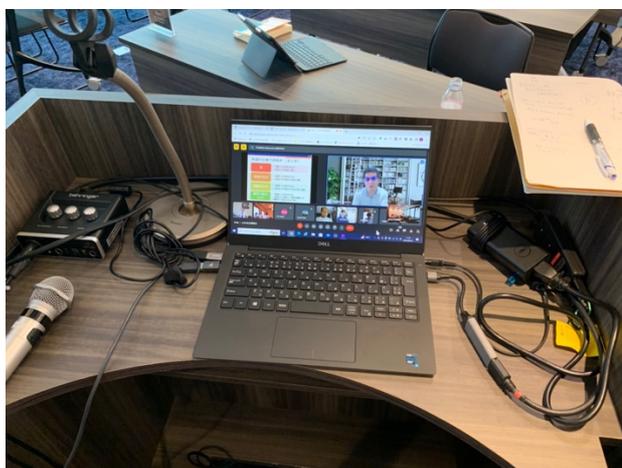
プログラム名	開催日	場所	参加人数
トマス・アクイナスの神学大全の第 2 部徳論の部分を読みながら、習慣形成に関するヒントを学ぶ	2023 年 9 月 23 日	セイドー文化センター オンライン	68 人

■ 担当者                    山本芳久東京大学教授

■ 内 容                      中世哲学を代表する聖トマス・アクイナス研究の第一線にいる山本教授により、トマスが習慣及び徳をどのように捉え、善徳をみにつけるヒントの提供を行い、参加者との対話を行った

■ 参加費用                無料

■ その他                    英語、西語にも対応



体験会・探求ツアー

新しい視点、気づき等を得るためにツアー、博物館・美術館等見学、山歩き等を行う活動

■ 実施プログラム名、開催日、場所、参加人数

プログラム名	開催日	場所	参加人数
大塚国際美術館ツアー-	2023年8月14日	鳴門市	26人
元町・中華街-メリケンパーク -東公園	2023年8月21日	神戸市	13人
虚子記念文学館ツアー-	2024年2月18日	芦屋市	8人
合 計			47人

- 開催日数            日帰り企画として年3回実施した
- 場所                外部施設若しくは野外
- 内容                日常を離れて探索に出かけることで、課題解決の手がかりを掴む
- 参加費用           実費 3000円～10000円（移動費と入場料等）



## ボランティア

全てを生産性、成果、パフォーマンスで評価する社会の中で、無償で与え、無償で受けることはひどく難しいこととなった。ボランティア体験を通して、無償性のロジックを発見し学ぶ活動

### ■ 実施プログラム名、開催日、場所、参加人数

プログラム名	開催日	場所	参加人数
釜ヶ崎 炊き出しボランティア	毎月第3土曜日	大阪府大阪市	94
独居老人や老人施設訪問	毎月第4土又は日曜日	芦屋市及び神戸市	85
フィリピンサービスプロジェクト	8月12日～28日	フィリピン国マニラ市	11
合 計			190

- 開催日数            日帰りボランティア月1回、16日間の海外ボランティアは、年1回開催
- 場所                外部施設若しくは野外
- 内容                独居老人よりそい、農業学校教室のペンキ塗り、路上生活者への炊き出し等
- 参加費用           無料、海外ボランティアは実費相当 6,000 円/日（移動・食事・宿泊等）



**連携・助成**

世界中の NPO、NGO、公益法人、ビジネススクール、国際組織等と連携協力したプログラムを行うとともに、人材の育成に取り組む団体に助成プログラムで支援する活動

■ 実施プログラム名、開催日、場所、参加人数

プログラム名	開催日	場所	参加人数(延)
ファミリー育成ワークショップ	毎月第2と第4日曜日	セイドー文化センター又は外部施設	延 181 人数
ヨーロッパリーダーシッププログラム(ELP)	3月23日～4月2日	IESE ビジネススクールと連携した、リーダーシップとマネジメント入門プログラム	9 人
「沖に乗り出す取組」助成プログラム	1～3月募集	兵庫県内で活動する団体組織(法人格の有無や種類は不問)を対象とし、自分の安楽で居心地の良い場所から外に出向き、境界線を超え、他者に自らを差し出すことを促す活動・事業に助成。選考結果ファミリー育成協会のパーソナルプロジェクトワークショップ事業に決定	助成1団体(1事業)

■ 内容 連携プログラムは、外部の団体組織の比較優位性を生かして実施。助成プログラムは、参加者が自身のコンフォートゾーンから一歩出る取り組みを主として支援

■ 参加費用 ワークショップは、1000 円/日、ELP は実費相当 10,000 円/日 (移動と宿泊)



複合活動

一定の参加者の状況やニーズに応じて、上記の活動を基本パーツとし、複数の活動を組み合わせ一連のコースとした活動プログラム

■ 実施プログラム名、開催日、場所、参加人数

プログラム名	開催日	場所	参加人数(延)
体験コース	随時	始めて参加する人々に、オリエンテーションと意向確認後、プログラムディレクターが参加者のニーズと状況から好ましいと判断する場合に、リトリート、オープン対話会、パーソナル面談の3つの活動を一定期間経験し、参加者のフィット感と望みを特定するコース	延 114 人
夏期集中コース	8月 10 日～31 日	一定の参加経験を持ち、成長と成熟を促し、より創造的・効果的に生きることを目指す人を対象に、サークル、リトリート、レクチャー、オープン対話会、パーソナル面談等を選定し、パッケージした集中コースを実施した。	延 420 人

■ 参加費用                      体験コースは、無料。集中コースは、実費相当 6,000 円/日（宿泊と三食）



## 2 法人の運営について

### 1. ガバナンス体制

#### 現行役員名簿

職名	氏名	生年月日	郵便番号	住所
理事長	向山伊知郎	1968年5月1日	〒659-0095	兵庫県芦屋市東芦屋町12番12号
常務理事	稲畑誠三	1958年9月3日	〒659-0095	兵庫県芦屋市東芦屋町12番12号
理事	松本准平	1984年12月4日	〒157-0067	東京都世田谷区喜多見9-10-21
理事	LEON GONZALEZ ROBERTO	1975年6月25日	〒135-0044	東京都江東区越中島3番16-211号
理事	木村昌平	1962年3月6日	〒852-8121	長崎県長崎市三川町1225

評議員	瀬田 尚	1966年3月3日	〒195-0063	東京都町田市野津田町2205-4
評議員	田丸 純	1975年2月23日	〒154-0003	東京都世田谷区野沢3-27-10
評議員	渡邊顕彦	1973年10月30日	〒223-0061	神奈川県横浜市港北区日吉2丁目20番35-4号
評議員	小林博子	1960年2月11日	〒420-0816	静岡県静岡市葵区沓谷一丁目25番20-1号
評議員	安井淳	1963年4月12日	〒152-0035	東京都目黒区自由が丘2丁目4番8号

監事	塚本 慎一	1960年3月30日	〒152-0035	東京都目黒区自由が丘2丁目19番12号
監事	Kolf David	1957年12月21日	〒606-8301	京都府京都市左京区吉田泉殿町56番4号

#### プログラムデザイン評価委員会（略称「PDEC」）（助成先選考委員会兼務）名簿

職名	氏名	職名
委員長	向山伊知郎	公益財団法人 Altum 協会理事長
委員	稲畑誠三	公益財団法人 Altum 協会常務理事
委員	松本准平	映画監督
委員	田丸 純	IT エンジニア
委員	渡邊顕彦	大妻女子大学教授
委員	デビット・セル	元京都大学教授
委員	加賀谷順一	IESE ビジネススクール日本代表

#### 会議の実施状況

年月日	会議名	内容	決議結果
2023年7月2日	全体会議	公益財団法人認定の報告と今後の動きの確認。	報告相談のみ
2023年10月2日	PDEC	実施事業のモニタリング評価と今後の事業計画相談	報告相談のみ

2024年2月11日	理事会	令和6年度事業計画と収支予算 / 常務理事への役員報酬額	全て承認
2024年3月10日	評議員会	令和6年度事業計画と収支予算	全て承認
2024年3月20日	PDEC/選考委員会	助成先選考	助成先選考承認

### ガバナンス機能を充実させる留意点

- ◇ 定例の理事会・評議員会とは別に、遠方在住の評議員及び理事・監事が参加可能なオンライン手段を活用し、モニタリング会議という名前で、年に数回の会議を開き、進捗状況の報告確認や、意見交換をした。
- ◇ 決議をするまでに、何らかの疑義や質問を含めいかなる意見であっても口頭あるいは文書でそれを自由に述べる権利があること、そして権利を放棄することは、しばしば無責任につながるという点を、全ての会議出席者に繰り返し周知した。
- ◇ 頻繁に理事長と常務理事は、他の理事、評議員、監事に連絡をとり、連携と共同統治を実現するようにした。
- ◇ 主としてガバナンスとコンプライアンスに関して、内部通報の窓口、通報のあった時の処理の流れを外部有識者と検討しており、次年度には素案を提示する予定。
- ◇ 監事による監査が形式的なものとならないように、監事の役割に関する外部研修を関係者に受けてもらうよう検討。

## 2. 事務局等の体制

### 事業・組織体系図



### 3. 課題への取組

○ 法人を安定的・継続的に運営し、事業を適正に行っていくための取組。

Altum 協会の経常収益のうち寄付金は 50%強を占めており、そのうちの大部分は、大口の寄付者が占める構造となっている。この状況は、ここ 10 年ほど前から続いてきた。それまでは、外国語を教える各種学校を設置運営しており、ここからの事業収益が大部を占めていた。

現在の大口寄付者は、まだ少なくとも 5 年は安定して、寄附金を継続する目処があるものの、以下の取組により、大口の寄付者の比率を少なくし、より安定的・継続的に運営できるように関係者に働きかけている。

- 小口でも会費や寄付をしてくださる賛助会を創設する
- 遺贈寄付等による大口寄付を基金として運用収入を増やす

以上

